

日本精神保健社会学会

THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

<日本学術会議協力学術研究団体 No. 1001>

ニュースレター第 63 号

発行人:宗像恒次 編集人:山本美奈子

平成 30 年 6 月 1 日

事務局:栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内

TEL & FAX 028-627-7188

E-mail:info@jamhs.org

第 24 回 日本精神保健社会学会学術大会に向けて

第 24 回学術大会実行委員長 山本 美奈子

(山形大学 学術研究院 (学士課程基盤教育機構))



今年も、第24回日本精神保健社会学会学術大会を筑波大学東京キャンパスにおいて開催いたします。今回の大会テーマは「脳の多様性を生かしたメンタルヘルス～発達しょうがいとは治療の対象ではなく生き方である～(仮)」です。現在、ADHD(注意欠如多動症)、自閉スペクトラム症などの発達しょうがいは、テレビ番組や雑誌などで取り上げられることもあり、広く知られるようになりました。またしょうがいという観点からは、学校や職場においては、社会的障壁を取り除くために必要な

便宜を図る合理的配慮による法的な位置づけが進みました。このように社会で広く知られるようになった発達しょうがいです。家庭、学校、職場などの現場では、関わり方や対応に戸惑うことが多々あります。それは、行動の特性を個性として捉えられていないことに因る部分もあるのではないのでしょうか。

欧米では、発達しょうがいと呼ばれる特性について科学的根拠に基づき脳の多様性という観点から研究が進んでいます。宗像恒次学会長は、「脳多様性を尊重できない家庭、学校、職場などレジリエンスの低い社会心理環境があると、ストレス症としてメンタルヘルスが悪化する」と述べています。本大会では、これまで治療や病理現象として捉えられてきた発達しょうがいを、発達の多様な現れであり生き方であるという視点で捉え直します。また、脳の多様性を尊重した家庭、学校、職場などの社会づくりについて討議する予定です。脳多様性を尊重できる社会は、当事者だけでなく、一人ひとりの個性が尊重され、共感し合うメンタルヘルス社会の実現につながるものと思われま

す。本大会が有意義な一日となりますよう理事一同で準備を進めています。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

第 24 回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ（第 1 報）

- 開催日：平成 30 年 11 月 23 日（金）祝日
- 会 場：筑波大学東京キャンパス
- 大会テーマ：脳の多様性を生かしたメンタルヘルス

～発達しょうがいとは治療の対象ではなく生き方である～（仮）

第 1 部： 口頭発表およびポスター発表

第 2 部： ①特別講演 日野 公三 氏 発達しょうがい専門の高校 明蓬館高校学校長

「思春期の発達しょうがい生徒の支援と伴走を通じて見えてきたもの」

②シンポジウム「脳の多様性を生かしたメンタルヘルス」

（シンポジストは交渉中）

★発表の募集★

1.発表形式

今年度より、口頭およびポスターの 2 種類から募集を致します。発表希望者は、演題名と発表形式、①口頭、②ポスター、③口頭およびポスターどちらでも可のいずれかを記載のうえ **8 月 31 日（金）**までに事務局へお申込みください。

申込み方法：E-mail または FAX（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）

2.抄録

抄録は、本学会の定型とし「実践報告型」、「科学研究型」に分けました。フォーマットは、本学会ホームページ <http://www.jamhs.org/>の「学術大会のお知らせ」にあります。定型のものをご使用のうえ、**9 月 20 日（木）**までに事務局にご提出ください。

申込み方法：E-mail（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）

3.当日の発表について

①口頭発表

パワーポイントを使用したパソコンの発表とします。学会事務局にてパソコンを準備しますので、当日電子媒体でデータをご持参ください。

②ポスター発表

ポスター発表のスペースは、90cm×180cm（A4 用紙で 20 枚程度貼れるスペース）を予定しています。事前準備のうえ、当日ご持参ください。

平成30年度「学会奨励賞」募集のお知らせ

今年度も「学会奨励賞」を募集いたします。エントリーを希望される方は、本学会ホームページの「日本精神保健社会学会奨励賞内規」の選考基準を充たしているかご確認のうえ、学会事務局にお問い合わせ下さい。ご希望の方に必要書類をお送りしますので、書類作成のうえ、9月末日までにご応募ください。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol. 24」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

1. 原稿締切：平成30年7月6日(金)厳守

2. 送付方法および送付先

* 郵送のみの受付となります。 詳細は、投稿規定をご確認ください。

* 投稿先

〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤 武 研究室内 日本精神保健社会学会事務局

平成 30 年度 講習会のご案内

昨年度好評につき本学会では、今年度も講習会を行います。皆様のご参加を心よりお待ちしております（詳細は、本学会ホームページをご参照ください）。



1. 講習会名

認定発達しょうがいアドバイザーセミナー

2. 講師：宗像恒次学会長、筑波大学名誉教授

3. 講習会趣旨

「発達しょうがい」とは、脳多様性（neurodiversity）を意味しており、その多様性を活かせず、発達課題を持つと周りから認知されたり、自ら認知してストレス症を持っている状態です。周りの人が当事者に「発達しょうがい」と感じている問題行動のほとんどはストレス症状です。「いなくなってくればどんなにか楽か！」と一瞬でも思う家族を含めた周りのひとが放つ顔や声の表情信号に対して当事者が反応しているストレス症状です。周りが本音で「そのままでいいよ、大丈夫だよ、見守っているよ、大好きだよ」という笑顔や穏やかな顔や声の表情信号になれば消えてしまうストレス症状です。

本認定発達しょうがいアドバイザー資格講座では、「発達しょうがい」についての脳科学を理解し、脳の多様性を尊重した家庭、学校、職場などの社会づくりのリーダー養成を目的としています。

4. 日 時：平成 30 年 9 月 1 日（土） 13：00～18：00

希望者のみ 認定発達しょうがいアドバイザー検定（料金 2000 円）18：00～18：30

5. 場 所：帝京大学 宇都宮キャンパス（2号館 101 教室） 栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

6. 定 員：60 名

定員になり次第しめきります（申込み期限：8 月 20 日（月））

7. 申 込：日本精神保健社会学会事務局 滝澤 武 宛

E-mail：ezn04763@nifty.com

8. 受講料：4,000 円（申込後、1 週間以内にお振り込みください）

9. 振込先：足利銀行本店 総合口座 1782324 タキザワタケシ

10. 主 催：日本学術会議協力学術研究団体 日本精神保健社会学会

11. 共 催：NPO 法人ヘルスカウンセリング学会、NPO 法人生涯発達研究所

筑波大学発 SDS SAT 情動認知行動療法研究所

12. 詳 細：本学会ホームページ <http://www.jamhs.org/> 「セミナーのご案内」参照

理事の声 小さな親切大きなお世話～今時の防衛～

○ 東京メンタルヘルス株式会社 武藤清栄

2018年1月22日、東京にも大雪が降りました。その日は都内の交通も麻痺していました。ふと、前方を見ると、車道を必死で台車を押している20代の若者がいました。台車には自動販売機に補充する缶コーヒーやジュース類がいっぱい積まれていました。車輪に雪が絡みついて進めないでいるのです。おまけに後ろから車が近づいていて、「早く行け」と言わんばかりです。若者は焦った様子で押し出しながら、ようやく地下鉄の出入り口のエレベーターの所にたどり着きました。私はその若者のすぐ横に立ってエレベーターを待ちました。他にも小学校1～2年生の子どもが2人待っていました。私はその若者の大変な様子を一部始終見ていたし、何も手伝えなかった自分に少し自責の念を感じていました。そこで、労いの言葉をかけようと思ったのです。「大変だったね、雪で・・・」その言葉の刺激に若者はびっくりしたのか、私の方に顔を向けましたが、アイコンタクトを取る様子はありませんでした。ただ、表情には厳しいものがあつたので、私はその場の空気を和らげようと「ゆうべから相当降ったもんね・・・」と付け加えました。でも彼は、エレベーターの方向をじっと見たまま無言を貫きました。

私は少しヒヤリとしましたが、その時2人の小学生が「この2人の大人は何やってんの？」といった表情で見上げていました。その仕草はその場をなごましてくれましたが、私は少し傷ついたままエレベーターに乗り込みました。目的地の地下2階に着くと、私の予想もしないことが起こったのです。その若者が「開く」ボタンを押しながら「君たち出ていいよ」と小学生に声かけしたのです。2人はスマイル顔で出て行きました。「おじさんもどうぞ」、錯覚だったのか、そんな風に言われたような気がして、その好意に甘えている自分がいました。落ち込んでいた気分が少し上がりました。電車をホームで待つ間に、私は追想していました。「あの若者の厳しい表情は何だったのか？」「おそらく大変な思いをしてエレベーターの所にたどり着いてホッとした瞬間、見知らぬおじさんに声をかけられ、びっくりしたに違いありません。緊張の表情そのものだったのです。緊張は一般に怖い表情をつくります。私のかけた言葉など受け止める余裕は無かったのかもしれない。そう思うと、私の落ち込みもリセットされました。しかし残念ながら、声を掛けないというストロークが、今時のストロークの流行にもなっています。少し腑に落ちませんが、あれは「小さな親切、大きなお世話」だったのでしょいか。

○ 殿山 希（筑波技術大学保健科学部保健学科鍼灸学専攻）

ほんの少し嬉しい春になった。研究室に大学院生を迎えた。指導教員を探して大学のホームページで私の研究に遭遇したという。入学試験の1ヵ月前に研究室にメールが届いた。研究への思いと計画の走り書きがあった。電話番号を知らせ、研究室のテーマと研究への姿勢を話した。後日、添付で研究計画書が送られてきた。「あの時、実は、私も先生がどんな方なのか確認していました。」と入学後、彼は白状した。なるほど。米国では、**job interview** はもはや雇用主が従業員を一方的に選ぶ場ではなく、双方の仕事への展望や意志の確認の場であると聞いたことがある。研究室も然り、というわけだ。

教員も変わった。10代の頃、若い大学講師の家に友と遊びに行ったことがある。先生は、狭い公務員住宅に両親と住んでいた。先生の小さな書斎兼寝室の壁という壁は床から天井まで何段もの本棚と化し、しかも前後二列に洋書がぎっしり並べられていた。「地震が来たら本に埋もれて死んでしまいますよ」と言うと、にっこり微笑み、「大物研究者の業績に埋もれて死ぬるなら本望」との返答。かくも生命危機を感じるほどの危険行動を日々笑顔で冒すくらいでなければ、大学の先生にはなれないのだと思った。

あれから約40年。世の中はパソコンの普及で変わった。読みたい洋書は、船便を数ヵ月待たなくてもネット販売で短期間で届く。雑誌論文も図書館でコピーしなくても、多くの論文がPDFでダウンロードできる。視覚に障害のある私も音声ソフトを立ち上げれば、多くの場合、論文を聴いて理解することが可能となった（まだ、全ての読み物が必ず音声に対応しているというわけではないが）。読む労、聴く労を惜しまなければ、誰もが多くのことを知ることができる。

私が米国のマッサージ研究所を訪ねて7年が過ぎた。現地に行っはじめて、そこで創られた論文の背景を理解した。なぜ、未熟児にマッサージするのか。なぜ、母親が子にマッサージするのか。なぜ、自閉症、注意欠陥多動性障害、HIV陽性者、心的外傷ストレス障害が介入研究の対象なのか…。米国のマッサージ研究は、米国の社会問題を色濃く反映していたのである。日本のマッサージ研究ではあり得ない対象であった。今年、初めて、大学院生は発達障害をテーマにした。

授業や雑事に追われ、やっと校舎が静まったらほんの少し自分の研究に向かう。お腹がすいた、そろそろ帰るかと思うと9時を過ぎている。9時から9時の仕事が数日続くと、

疲れて 10 時から 10 時の仕事になり、金曜日になる。週末も大学。帰宅しようと立ち上がると目がかすんでクラッとする。これはこれである種の危険行動かもと感じるようになった。季節や年齢に応じた養生法—食べ物、暮らし方、鍼の刺し方まで—が東洋医学の古典に書かれていてそれを教えている。健康的な生活に戻したいのだが、abuse になっているのか直せない。しかし、また、ともに学び合える大学院生が入ってきた。学術に精進。研究を通して、私達が患者様に行っている治療の証明ができる。臨床家なら経験的にわかっている効果だが科学的に証明されていないことを一歩ずつ、私達が解明して行く。未知だったことが、いつかきっと常識になっていく。とても愉しく、意味のある仕事だと思う。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられております。平成 29 年度の年会費は、平成 29 年 10 月 1 日から平成 30 年 9 月 30 日の期間です。今年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願い申し上げます。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000 円 学生会員 3,000 円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と 2 年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス 滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局 TEL: 028-627-7188 FAX: 028-627-7188、E-mail: info@jamhs.org

入会金：5,000円

会費：通常会員 5,000円、学生会員 3,000円、賛助会員一口 10,000円（一口以上）、機関会員 20,000円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名：日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男・女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
自宅住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
所属系 (○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			